

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式1（高等学校）

		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である
学校名	佐賀県立神埼清明高等学校	
1 前年度 評価結果の概要	・全ての評価項目についてB以上の達成度であった。次年度以降は、スクール・ミッション及びスクール・ポリシーに基づき、教育活動の充実・発展を推し進めていく。 ・総合学科の中核をなす「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」については、3年間を見通した指導内容の見直しを行い、生徒一人一人の在り方・生き方を考えさせる。 ・「新10の清明力（資質・能力）」の育成に向け、カリキュラム・マネジメントの視点を持って全ての教育活動を通して実践していく。	
2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	○東部地区唯一の総合学科高校として、一人一人の個性に応じた幅広い学びとキャリア教育を推進し、社会の構成員として自立した人材を育成すること。 ○地域の関係団体・企業等との連携・協働を実践し、学校の新しい魅力づくりに挑戦する。	

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標	①生徒が主体的に学び、考える授業を目指す。 ②生徒が自分の夢や目標の実現に向けて挑戦する「志を高める教育」に取り組む。 ③社会人として必要なマナーやモラルをキャリア教育の一環として育成する。 ④豊かな心を育む教育の充実を図る。 ⑤部活動など課外活動の活性化に取り組む。 ⑥地域に信頼される学校づくりを推進する。 ⑦学校における働き方改革を推進する。
	高校入学後も様々な場面で意欲的に活動する、次のような人を求めます。 ・総合学科のキャリア教育を通して、卒業後の進路について考え、その実現に向けて挑戦する生徒を求めます。 ・総合学科の学習に主体的に取り組む、自己の資質・能力を伸ばそうと努力する生徒を求めます。 ・部活動やボランティア活動等に積極的に取り組み、本校の活力となる生徒を求めます。	グラデュエーション・ポリシーを実現するために、次の方針により教育課程を編成します。 ・自己の適性や進路に応じて系列を選択し、主体的に科目を選択できる教育課程を設定します。 ・「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」を通して、自己の在り方・生き方(理想の自分)を考えます。 ・地域の小学校・中学校、関係機関等と連携した実践的な学びを展開し、学習の深化を図ります。	スクール・ミッションを実現するために、目指す生徒像を次のように掲げ、10の清明力(資質・能力)を育成します。 ・よりよき人生を送るため、主体性、思考力、計画力、困難を乗り越える力(レジリエンス)、ストレスコントロール力を育成します。 ・よりよき社会の創り手となるために、想像力、協調性、規律性、対話力、発信力を育成します。		

5 重点取組内容・成果指標	最終評価
---------------	------

(1)共通評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○授業の充実と改善	○生徒が「学び」、「考え」、「挑戦する」できる授業を通して、10の清明力(資質・能力)を育成し、生徒の授業満足度を80%以上とする。	・公開授業週間を設定し、教員が指導方法を互いに学び、研究する機会とする。 ・各教科で1回以上の研究授業を実施し、授業の工夫、改善を図る。	B	・「学校の授業に満足している」と回答した生徒は全体で88%であった。ただ、学年別に見ると、1年生90%、2年生88%、3年生85%と徐々に下がっているため、更なる工夫や改善が必要と思われる。	A	・80%の目標は達成されている。 ・上位学年で評価が下がる原因を探る必要がある。 ・授業に満足している生徒の割合が高いことは素晴らしい。実習や実技を伴う授業と座学中心の授業のどちらが特に高い評価を受けているのかを知ることが重要。
	○「基礎力診断テスト」の活用による学力向上	○GTZ(学習到達ゾーン)のA・Bの生徒数が前年と比べ増加し、D3の生徒数が前回と比べ減少する。	・年3回実施する「基礎力診断テスト」のGTZ(学習到達ゾーン)別分布や上位者一覧を作成し、前年度や前回との差などの情報を全教職員で共有し、生徒の学力向上に努める。	B	・12月実施の基礎力診断テストでABの生徒数は2年生が14名(前年12月/29名)であった。D3に生徒数は2年生が32名(前回9月/30名)1年生29名(前回9月/28名)であった。	B	・A、Bに達した生徒が半減し、D3が微増している。基礎力向上を目指し、目標の前年比較を検討する必要がある。 ・全教職員で共有することが重要。 ・2年生が数値目標に達していないため、C評価の可能性があるが、先生方の感覚でBと評価されたなら、目標設定の変更を検討すべき。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○教育活動全般を通して、自他を尊重し協働する生徒の育成を目指し、「想像力」・「協調性」・「規律性」・「対話力」・「発信力」の5つの資質・能力のうち、3つ以上の項目が「高まった」と自己評価する生徒の割合を60%以上とする。	・人権教育についての講演会を実施する。 ・授業や講演会で情報モラル教育を実施する。 ・家庭や地域社会、PTA組織との連携を密にし、効果的な道德教育の在り方を探る。	B	・「想像力」・「協調性」・「規律性」・「対話力」の4つの資質・能力については「高まった」と自己評価する生徒の割合が60%を超えているが、「発信力」は50%弱であった。自信をもって自分の正義感・倫理観を発信する力を伸ばしたい。	B	・自己評価に学年差や系列による差があるかを確認する必要がある。 ・「発信力」向上のための授業を意識することが重要。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止(いじめの定義、防止の取組、事案対処等)について、組織的な対応ができていると回答した教職員の割合を90%以上とする。	・いじめ防止対策推進法に基づき、いじめの実態を把握し、積極的な認知を行う。 ・いじめアンケートを年2回以上実施する。 ・教育相談週間や長期休業前後の個人面談を実施し、いじめや悩みなどの早期発見や早期対応を組織的に行う。	B	・生徒間のいじめなどのトラブルがあったときの対応を、管理職を含めた学年や関係部署全体で丁寧に対応することができた。 ・いじめアンケートについては、担任と管理職で分担して対応し、問題のある事柄については、速やかに対応し、早期発見、早期対策に努めた。 ・また、年に2回いじめアンケートを行っているが、そこには何も書けずに、心無い言葉に傷ついている生徒も見受けられるので、普段からの見守りも引き続き続けていきたい。	B	・アンケートに記入できていない生徒に注意し、引き続き見守りを続けることが重要。 ・細やかな対応がなされていると感じる。 ・学校全体で対応しているので、今後も継続して取り組むことが望ましい。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成する教育活動の実施	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる、どちらかといえば感じる」と回答する生徒の割合を80%以上とする。	・「佐賀語り」やDVD教材を活用し、佐賀県の良さを発見させる。 ・外部講師による郷土愛を育む講演会を実施する。	C	「佐賀県に誇りや愛着を感じる、どちらかといえば感じる」と回答する生徒の割合は、約71%となり、次年度の取り組み内容に課題が残った。	B	・地元神埼以外の地域から通う生徒が多いことを強みに、佐賀県全体の良さを考えるべき。 ・卒業後の県外流出を防ぐためにも必要な取り組み。 ・学校の取り組みが単発的な内容になっている印象がある。魅力度ランキング最下位というニュースも影響しているかもしれない。
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・年度当初に交通講話を実施することで、交通安全や交通マナーについての意識の定着を図る。 ・登校時の交通安全指導、自転車街頭指導、駐輪場の整理、鍵かけ運動、自転車点検、交通委員会の充実を行う。	B	・自転車×自転車事故4件、自転車×普通車4件発生した。 ・生徒会生徒とともに校外指導に取り組むことができた。 ・昨年度より発生件数が増加した。幸いなこと入院治療を伴う重大事故は発生していない。	B	・発生件数の増加は残念であり、交通ルールのマナー指導を強化する必要がある。 ・自転車通学の生徒のマナーは良いと感じるが、ヘルメット着用者を増やしたい。 ・重大事故が発生しなかったことは良かったが、この項目については厳しく評価していきたい。生徒会の取り組みも評価できる。
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒を90%以上 ○朝食喫食率を90%以上	・保健だよりを活用した朝食の重要性の周知及び生徒の意識向上を図る ・保健室に入室する生徒情報を学年主任及び担任、スクールカウンセラー等と共有し、連携した指導を行う ・健康観察、手洗いや手指消毒、教室の換気など、感染症の予防対策を徹底する	B	・「健康に良い食事をしている」と回答した生徒は82%、朝食喫食率は85%で目標値に達せなかった。今後も朝食の重要性や生徒の意識向上を図るための方策を構築したい。 ・生徒の個別相談には、担任、学年主任、スクールカウンセラーと連携して対応できた。 ・感染症による学級閉鎖等はなかったが、引き続き感染症予防対策を図りたい。	B	・健康に良い食事には家庭の協力が不可欠であり、PTAの取り組みが重要。以前のケーキ作りやみそづくりは好評だった。 ・朝食の喫食率上昇には保護者の理解と取り組みが重要。生活習慣病予備軍とならないうための情報提供や指導が必要。 ・食習慣は小学校時代からの影響があり、家庭の意識を変えることは難しい。卒業後、親元を離れる生徒が自炊できる力をつけることが望ましい。

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合を10%とする。	・定時退勤日を設定する。 ・学校閉庁日を設定する。 ・部活動の適切な休養日設定を推進する。 ・校務システム(メッセージ機能)やメール会議を活用した情報共有を行うなど会議の効率化を図る。	B	・時間外勤務時間が前年度より13%減少し、年次休暇取得については、70.5%の教職員が、県の目標である14日間以上を取得した。 ・服務管理システムの導入により、年次休暇の申請と整理が効率化されたが、全体的な業務の削減や効率化には未だ課題がある。	B	・30%弱の先生が14日以上の子休を取得していないため、業務内容や量に教員差がある可能性がある。 ・時間外勤務が長い職員は大体同じであり、個別対応が必要。
●特別支援教育の充実	○特別な教育的支援を必要とする生徒に、適切な指導や必要な支援を組織的に行うための校内支援体制の充実	○特別支援教育についての理解を深める	・全職員対象の特別支援教育の研修会を実施する ・学年担当の特別支援教育コーディネーターを活用した情報共有を行う	B	・支援の必要な生徒に対し、外部機関と連携しながら、進路実現を果たすことができた。 ・担任・教科担当と情報を共有しながら、適切な支援を行うことができた。	B	・年度によって必要な支援が変わるため、引き続き理解を深めることが重要。 ・特別支援学級の児童生徒が増加しているため、高校でも重要な課題となる。今後も職員研修を継続することが望ましい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○進路実現	○進路希望の実現	○就職内定率100%を目指す。 ○第一志望の大学・短大・専門学校への合格率100%を目指す。	・生徒の進路希望、適正や能力を把握し、受験指導、面接指導の充実を図る。 ・企業、大学、短大、専門学校との情報交換を密に行う。 ・進路検討委員会を開催し、生徒にとってより良い進路を検討し指導を行う。	B	・進学、就職ともに3年生ほとんどが進路先を決定することができた。 ・2年次より進路ガイダンスを複数回実施し、生徒、保護者、学年団に必要な情報を提供した。 ・面接指導、プレゼンテーション、小論文指導 等、受験に必要な指導を個々に指導ができた。 ・進学先、就職先との情報交換を行うことができた。	B	・ほとんどの生徒の進路が決定したことは素晴らしい成果であり、学校がきめ細かに対応してきた結果である。
★総合学科の教育活動の在り方	★生徒一人一人と向き合うキャリア教育と探究活動を通じた教育活動の実践	★1年次:自分の「系列選択」に満足していると感じている生徒の割合を80%以上とする。 ★2年次:「探究基礎編」の活動を通して、探究のプロセスを理解していると認識している生徒の割合を70%以上とする。 ★3年次:系列での「探究実践編」を通して、10の清明力のうち、5項目以上が身についたと認識している生徒が60%以上とする。 ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合65%以上、教職員の割合70%以上とする。	・1年次は、自身の進路や将来について考える「ライフプラン」を中心に活動を行う。その為の取り組みとして、進路適性診断、職業教育、進路ガイダンス等を実施する。 ・2年次は、学級や系列での探究を通して、探究活動のシステムを理解させ、社会や地域における「答えのない活動」に挑戦することで、学ぶ意欲の向上を図る。 ・3年次は、系列での学びを深め、その集大成としての探究活動を実施し、中間報告会、総合学科発表会においてその成果を発表する。	B	・1年次:系列の定員についての考え方を見直すことで、自身の系列選択に満足していると回答した生徒の割合は93%となり、目標であった70%を大きく超えることが出来た。 ・2年次:探究活動を通し、探究のプロセスを理解することが出来たと回答した生徒の割合が約88%となり、目標であった約60%を超えることが出来た。 ・3年次:系列での「探究実践編」を通して、10の清明力のうち、5項目以上が身についたと認識している生徒が約90%となり、目標であった60%を大きく超えることが出来た。 ・自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合77%、教職員の割合81 %となり、目標値を超えることが出来た。	A	・目標数値を大きく超えているため、さらなる取り組みが期待される。 ・やりたいことを学んでいる生徒が多いことは学校の強みであり、高校無償化が中学生の進路に影響を与える中、その強みを生かすべき。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望	・「◎ふるさと佐賀への思いを醸成する教育活動の実施」を除く、全ての評価項目についてB以上の達成度であった。次年度以降は、学校関係者評価の指摘を踏まえ、成果指標の見直しを行うとともに、結果に至る原因等の分析にも取り組んでいく。 ・総合学科の中核をなす「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」については、これまで同様に3年間を見通した指導内容の見直しを行い、生徒一人一人の在り方・生き方を考えさせる。 ・「新10の清明力(資質・能力)」の育成に向け、カリキュラム・マネジメントについてさらなる取り組みを行っていく。
----------------	---